

社会事業彙報

復刻版 全17巻 別冊1

しゃかいじぎょういほう

戦前期社会事業の情報の宝庫！

「慈善」的概念から「社会事業」という理念が確立した一九三〇年代—

民営・公営の社会事業施設が飛躍的に増加し、方面委員制度が全国的に普及した時期に刊行された本誌は、細かな行き届いた分類で、児童保護・青年団運動・社会衛生・廃娼運動・釈放者保護事業・労働者災害扶助から共同浴場・公益質屋まで、日本の社会事業の状況を幅広く、かつ

詳細に報告！

体裁	A5判／上製／総八、七九二頁
配本	全四回（第一回配本一〇一〇年一〇月）
定価	本体単価格 三四〇、〇〇〇円+税
解説	寺脇隆夫
発行本	右田紀久恵・永岡正己・古川孝順 中央社会事業協会
推奨	一九二七～一九三九年発行

不二出版

戦前期社会事業を検証する第一級資料

右田紀久恵（大阪府立大学名誉教授）

本復刻版は、戦前期社会事業に関する情報の宝庫として、現行制度や行政さらには広範囲にわたる民間の実践の淵源であり、その形成過程を歴史的に検討する上で不可欠な、第一級の資料群である。

社会福祉がボーダレス化してきていると評される今日、あらためて「社会福祉とは何か」という原点に立ち戻りながら、なぜ当時の社会経済状況の中で、社会事業の成熟をめざす政策的努力がなされなければならなかつたのか、その問い合わせに各巻各頁が応えている。研究と実践の両面において、歴史的変化の中で固有性を問うことが求められている時、不可欠の貴重な資料が果す役割は、從前にまして大きいものがある。また、変化や展開を「外発性」ではなく、「内発性」に比重をおく地域福祉の視点からも、重要な資料といえる。政策と執行にかゝわる国・地方関係および公私関係の詳細が、これから地域福祉のあり方や展望の示唆を与えてくれる。「過去をふりかえることは未来に責任をもつ」（ヨハネ・パウロ）の名言が、活かされる好機の出版でもある。

『社会事業彙報』の活用を期待する

永岡正己（日本福祉大学教授・社会事業史学会会長）

『社会事業彙報』が復刻されることには意義深いことである。『社会事業』の付録だった時期は合わせて読むことができたが、中央社会事業協会に社会事業研究所が設立されて『社会事業』『社会事業彙報』『社会事業年鑑』が研究所で編集されるようになつてからは、これらの三つが表裏一体であるにもかかわらず、『彙報』は目に付きにくい位置にあつた。

だが、昭和初期から戦時下に至る社会事業の実際の姿を読み解く上で、『彙報』はきわめて重要であり、雄弁である。「実務者の利用に供する」ことを目的として編集されているので、各分野の記事、法運用等

の質疑、社会行政資料や資料・統計等を通して客観的な動向が把握できるだけでなく、当時の社会事業行政や運営の実際や重点がよく示されている。

『彙報』はやがて一九三九年一月に「発展的廃刊」され、「大衆社会事業雑誌」としての『厚生の友』へと変貌することになるが、恐慌から戦時へと時代が移行してゆく中で、人びとの暮らし、社会事業の意図や役割がどのように推移していくかが、実証的に明らかになつていている。そして『彙報』の時代が担つていた意味も浮き彫りにされているともいえよう。

この資料は、理論や施設・地域実践史の側面とは異なる角度から、社会事業の実像をリアルに示すものであり、今後の社会福祉および歴史研究の進展に大いに役立つ貴重な基礎資料である。広く活用されることを期待したい。

（ながおか・まさみ）

彙報をどう読むか

古川孝順（東洋大学教授・日本社会福祉学会会長）

彙報、若い世代にとっては書くことはおろか読むことすら難しい難解熟語であろう。広辞苑には「分類して集めた報告」、大辞林には「分類別にまとめた報告、または報告書。雑報」とある。イメージとしては大辞林が近い。

社会事業の動向、日々、月々、年々を物語る多様な情報の集成、雑記録とでもいえばよいであろう。そのような『社会事業彙報』がなぜ重要視されたのか。そこには雑誌『社会事業』の性格が関わっている。『社会事業』の主軸を構成する論稿は今読んでもかなりハイレベルである。戦前にはそういうものは存在しないが、『社会事業』はいつてみれば社会事業学会の機関誌、研究誌である。それだけに他方において、社会事業の日常（動向）を示す彙報が必要とされ、尊重され、ついには独立した冊子にもなつたのである。

『社会事業彙報』の内容は情報としてみれば玉石混淆である。しかし、宝と石を分かつのは情報そのものではない。読み手のもつ虫眼鏡の質や力量、すなわち読み手の着眼力、分析力、想像力である。彙報を素材に昭和初期の社会事業の実態にどこまで迫り、イメージ化し、歴史として再構成することができるか、読者諸氏による挑戦を大いに期待したい。

（ふるかわ・こうじゅん）

社会事業彙報
昭和八年七月

財團法人中央社会事業協会

一九三三（昭和8）年七月号より部分

□聯合道府県立療養所長
會議

聯合道府県立療養所長會議は去る十月十一、十二の兩日内務省に於て開催された。

同會議に於ける内相摺扱、協議事項、各所長提出議題、及び出席者氏名は左の如くである。

▽内相摺扱

凡そ如何なる病氣ても氣の毒でないものは有りませぬが、殊に癆病に至りましては患者自身の過誤からして罹る病氣ではないのに兎に角世間から忌み嫌はれ其上治療の效果は摺々しく現はれないで眞に氣の毒な病氣と承知して居ります。諸君は此の憚むべき多數の患者を相手とせられて日々其の治療に懸念に献身的に御骨折下さることは御職掌とは申しながら御労苦を多く致します次第であります。今回諸君が御會同になりましたして熱心に御協議を悉くされることは本

件

一九二八（昭和3）年一一月号より部分

第二回三重縣社會事業研究會

第二回三重縣下社會事業研究會は八月十七日、四日市々公會堂に於て開催された。

縣社會課長野島善之助氏外課員、縣下社會事業關係者、方面委員等九十一名參集したが協議事項は左の如くである。

一、恩賜診療券を繼續又は之に代るべき施設を認ぜられんことを其筋へ建議する件
二、未監督精神病者入院治療費減額に關する件
三、救護帳式の一部改正に關する件
四、委託救護費増額に關する件
（宇治山田市提出）
五、救護法施行細則中改正の件
（三重縣私設社會事業聯盟提出）
六、救護法施行細則中改正の件
（松阪市提出）
七、三重縣兒童保護聯盟を組織する件
（ふるかわ・こうじゅん）

一九三四（昭和9）年九月号より部分

内容見本

原本を82%縮小してあります

滋賀県社会事業デーの実施

滋賀県並懸關係社會事務局體協力、九月一日第

二回社會事業デーを實施した、先づ縣では添付の様な方面委員制度宣傳のリーフレット十五萬枚を作り縣内各戸に配布した。縣の社會事業聯盟では別途添付の如きボスター三千枚を作製、市町村に分配し、又方面常務委員聯合會では添付の様な小袋五萬八千枚を作製して方面委員活動資金造成の爲八十の市町村に配布した、尙懸社會事業協会では五ヶ所に方面委員会の活動寫眞會を開催することとした。

(向井地方図報告)

一九三四(昭和9)年九月号より

児童保護

□室蘭市主催少年職業指導紹介講習會

日時 六月十五日
会場 松山市職業紹介所

出席者 百五十名
小学校教員、松山市、三津瀬町、愛國婦人會各職業紹介所員、縣市關係者等

講演者

少年職業指導に就て

大阪地方職業紹介事務局長 齋藤 亮

講演者

愛媛縣提出

一、昨年度に於ける卒業兒童の状況に鑑み本年

度卒業すべき兒童の就職に對し留意すべき點

如何。

松山市職業紹介所

三、就職後少年の輔導に關し適切なる方法如何。

松山市職業紹介所

一、各小學校並に假校舎に一名以上の少年職業紹介聯絡委員常置の件。

一、兒童個性調査表作成の件。

三津瀬町職業紹介所

一、各小學校に於て少年職業選擇の基礎的準備として調査法實施の状況承りたし。

愛國婦人會愛媛支部婦人職業紹介所

一、職業紹介所が聯絡小學校と協議會を開催する適當の時期に就て。

一、學校と職業紹介所が緊密なる聯絡を圖るには距離遠隔では相互不便なり現在聯絡學校を改廢變更するの要なきか。

一、營利紹介業者又は工場募集員の手による就職者も可成父兄をして學校長教員に相談し其同意承認を受けしむるの要なきか。

一、學校の職業紹介事務局長遊佐 敏彦

講演者

横濱市中央職業紹介所長 間部興平次

講演者

愛媛縣提出

一、失業問題

東京地方職業紹介事務局長 遊佐 敏彦

講演者

一、職業紹介及少年職業指導の精神

室蘭市職業紹介所長 川西 實三

講演者

一、性能検査器取扱の説明

室蘭市職業紹介所書記 武田 幸一

講演者

一、職業紹介及信用保證制度に就て

横濱市中央職業紹介所長 間部興平次

講演者

一、職業紹介實務

室蘭市職業紹介所長 遊佐 敏彦

講演者

一、職業紹介及信用保證制度に就て

横濱市中央職業紹介所長 間部興平次

講演者

一、職業紹介及信用保證制度に就て

社会事業彙報

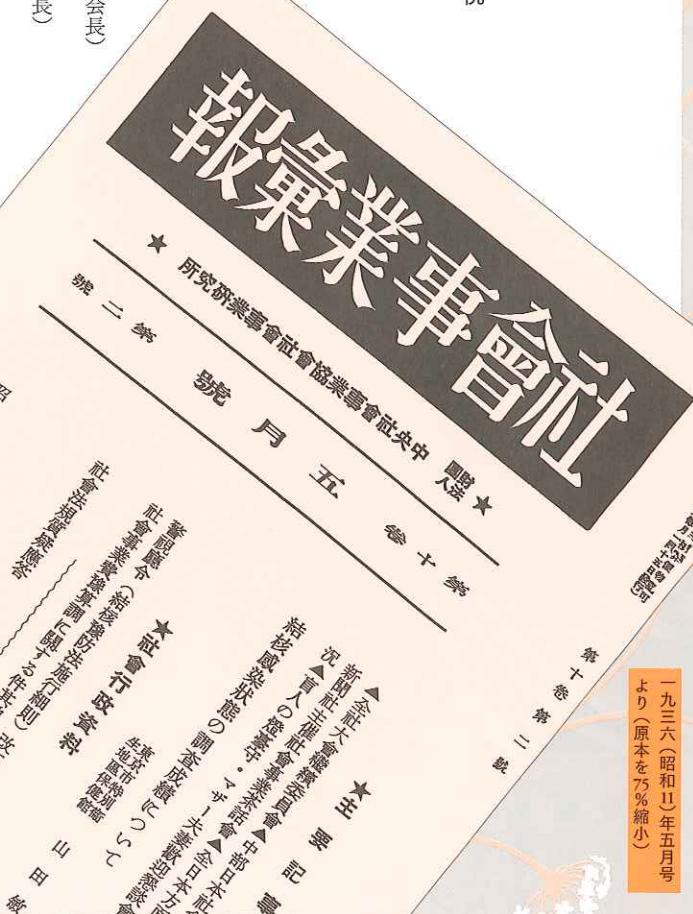
復刻版 全17巻 別冊1

復刻版概要

第1回配本	2010年10月 本体80,000円+税 ISBN978-4-8350-6465-9
第1巻	1927年6月～28年3月号／504頁
第2巻	1928年4月～12月号／546頁
第3巻	1929年1月～9月号／478頁
第4巻	1929年10月～30年6月号／496頁
第2回配本	2011年6月 本体80,000円+税 ISBN978-4-8350-6470-3
第5巻	1930年7月～31年3月号／540頁
第6巻	1931年4月～12月号／460頁
第7巻	1932年1月～9月号／484頁
第8巻	1932年10月～33年6月号／484頁
第3回配本	2011年10月 本体80,000円+税 ISBN978-4-8350-6475-8
第9巻	1933年7月～34年2月号／504頁
第10巻	1934年3月～11月号／528頁
第11巻	1934年12月～35年7月号／564頁
第12巻	1935年8月～36年4月号／568頁
第4回配本	2012年6月 本体100,000円+税 ISBN978-4-8350-6480-2
第13巻	1936年5月～12月号／556頁
第14巻	1937年1月～8月号／556頁
第15巻	1937年9月～38年4月号／496頁
第16巻	1938年5月～1939年1月号／486頁
第17巻	1939年2月～11月号／542頁
別冊	解説・索引

推 薦	解 説	発 原 定 価	別 冊 本	體 裁
古川孝順	右田紀久恵 (大阪府立大学名誉教授)	本体80,000円+税 中央社会事業協会	解説・索引	A5判／上製／総頁数八、七九二頁
永岡正己 (日本福祉大学教授・社会事業史学会会長)	寺脇隆夫	三四〇,〇〇〇円+税 一九二七～一九三九年発行	全四回配本	

別冊のみ分売可＝本体価格三〇〇〇円+税
ISBN978-4-8350-6487-1



一九三六(昭和11)年五月号
より(原本を75%縮小)

不二出版

*表示価格はすべて税別

〒113-0023

東京都文京区向丘 1-2-12

TEL 03-3812-4433

FAX 03-3812-4464

振替 00160-2-94084